



花粉症治療について

今年（2026年）のスギ花粉の飛散量は例年通りからやや多いと言われています。当院のアレルギー診療は、まず患者さんのアレルギーの重症度を判定し、状態を把握してから薬剤の選択になります。内服薬は、内服や点鼻薬、点眼薬、眼瞼クリーム、テープ剤、ゾレア皮下注射、舌下免疫療法、と様々あります。抗アレルギー薬の種類はさまざまあり、ロイコトリエン受容体拮抗薬、ステロイド薬、免疫調整薬など、複数の内服薬を組み合わせて治療を行うこともあります。

治療方法については、患者さんの現在の状態を把握し、適切な薬剤を選んでいくことで、患者さん毎のオーダーメイドの治療に繋がっています。また、アレルギー性鼻炎をお持ちの方は、気管支喘息やアトピー性皮膚炎、花粉果物アレルギー、口腔アレルギー症候群、接触性皮膚炎、結節性痒疹などが合併することがあり、全身管理を行いながらの治療が必要になります。舌下免疫療法を開始する場合には、お薬手帳から今までの内服薬を調査し、全身状態を把握してから治療を開始する必要があります。また、小児科専門医でもある院長が担当するアレルギー科としては、お子さんの成長発達段階でどのようなアレルギーの経過を迎るのかを把握しながら治療介入ができます。

お困りの症状は花粉症としての鼻汁くしゃみだけでしょうか？春だけではなく、秋やその他の季節にも症状があるようでしたら、適切にお薬を使用していくことで、季節によらず快適に過ごせる時間が多くなるでしょう。花粉症の件で質問が多い事項についてまとめたのでご参考にしてください。

1：花粉症のお薬を飲んでも効かないですが、他に何か治療はありますか？



内服のタイミングは適切でしょうか？点眼薬の使用の仕方も確認させていただきます。症状が出る前から、粘膜の症状を抑えることで、快適に過ごせる時間が多くなります。そのため、例年ですと1月ごろから内服していると花粉のピークの時に楽に過ごせる方が多いです。また、自宅に帰った時に外で付いてしまった花粉をなるべく家の中に持ち込まないことも大事です。日中の花粉対策についても相談して参りましょう。最近はゾレア皮下注射を選択する方も増えてきていますので、様々な治療の中から診療をすすめて参ります。過去のアレルギー検査結果や、処方薬（お薬手帳）などがございましたら、持参してください。

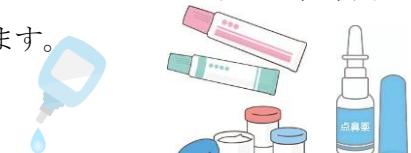
2：スギの舌下免疫療法はいつから開始できますか？

スギの舌下免疫療法は、今年は5月中旬以降から開始予定にします。一度、現在の全身

状態を把握しますので、事前に受診してください。ダニの舌下免疫療法については、状態に応じて開始時期を相談していきましょう。ダニの舌下はいつでも開始可能ですので、花粉症かもしれないと思っていたら、ダニアレルギーだったということもあります。一度受診されてください。

3 : 花粉症で咳が出来ますか？

何らかのアレルゲンがきっかけとなり咳嗽が出現することがあります、花粉や各種アレルギーについて、また、気管支喘息のコントロールはどのような状態になっているか、確認させていただきます。また、慢性的な咳は、感染症のこともありますので、原因をひとつひとつ精査をして治療をすすめていけたらと思います。



4 : 大人も受診可能ですか？

アレルギー専門のクリニックとして、こどもだけでなく、大人の方も受診可能です。ご家族で受診する場合には、大人の方もWEB予約を活用してください。アレルギー検査や呼吸機能検査等も実施できます。また妊婦や授乳中の方の薬剤についても、適切な治療薬を選択いたします。当院は、アレルギー専門医が在籍しているクリニックです。

(<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/allergy/senmoni/index.html>) また、小児アレルギーエデュケーター (PAE : Pediatric Allergy Educator) やアレルギー疾患療養指導士 (CAI : Clinical Allergy Instructors) も在籍しておりますので、お気軽にご相談ください。

5 : ゾレア®皮下注射はできますか？

12歳以上の重症の患者さんに対して、毎年2月～5月に抗IgE抗体薬(ゾレア®)の治療薬が選択可能です。適応はそれぞれの患者さんにより異なりますので、一度受診してください。受診したその日に接種できる薬剤ではありませんので、現在の治療薬を把握して、重症度を確認いたします。どの日に受診されても相談は可能ですが、より専門的な内容や説明をご希望の方は、最新の医師勤務表を参照してください。



2026年2月2日

桜こどもクリニック 理事長 木村岳人